

## 定着 WG

### 意見交換内容（メモ）

【日時】2018 年 10 月 18 日（木）15 時～17 時

【場所】情報科学研究科 C 棟 6 階 C609

【構成員（敬称略）】清水（座長・情）、尾上（情）、村田（情）

若宮（情）、原（情）、平岡（生）、細田耕（基）細田一（情）、津田（情）

【陪席（敬称略）】鐘ヶ江大学院係長（情）

【欠席】藤原（情）、増澤（情）、深川（生）

来年度以降の HWIP 定着計画について議論の上以下のことを決定した。

- 1) リーディングプログラムを全学の国際共創大学院学位プログラムとして位置づけ定着させる。
- 2) 情報科学研究科に正規科目として定着させる。
- 3) 副専攻プログラムとして全学に普及させる。

### 総括

今までの議論を総括し WG として HWIP 定着について以下のようにまとめる。来年度以降の活動の指針とすることを企画運営委員会に上申する。ヒアリングの資料に反映する。

- 1) 大学からの奨学金の賦与の仕方について

色々なパターンをシミュレーションの上、協議し以下のようにすることとした。

#### (ア) HWIP 履修生 1、2 年次（M1、M2）

① 月額 2 万円×12 か月（年間 24 万円）

② 対象：履修生申請者

#### (イ) HWIP 履修生 3 年次以降（D1、D2、D3）

① 月額 3 万円×12 か月（年間 36 万円）

② 対象：履修生申請者

- ・大学の規則により他の返還免除奨学金を月 5 万円以上受けているもの、学振研究員は除外する。
- ・履修生は前年度末までに奨学金に申請し、担当教員でチェックし支給する。  
新年度入学者は、入学月に申請する。
- ・大学から 2000 万円奨学金に充てられるので全員に受給することは可能。
- ・3 年次以降の履修生は別途、授業料免除となる。
- ・3 年次以降は学振研究員になれるよう申請を強く指導する。
- ・研究科から RA 経費を別途支給できるよう検討をお願いする（支給の方法、額などは各研究科に一任する）。（年間 30 万円、50 万円など）
- ・HWIP は履修生数が多いので一人当たりの額を上げられるよう大学をお願いする。

2) 平成 31 年後以降のカリキュラムなど(教職員 3 名ずつを想定 または 以降は 1 名ずつを想定)

(ア) 教員 3 名: 教務、産学と融合研究、海外連携を担当

(イ) 職員 3 名: 教務、会計、産学および海外

(ウ) 履修生定員 20 名

(エ) 平成 31 年度については全カリキュラム、科目を継続することを WG として決めた。将来、運営体制が縮小すると判断した場合の運営については→のように研究科の科目との読み替えなどを行って負担を減らし定着させていく。

(オ) 1 年次

- ① 創出論(企) → 維持 または 情報研究科イノベーション論
- ② 融合研究 → 維持
- ③ 基礎論 I、II → 維持 または 各研究科の科目に戻す
- ④ マシンラーニング → 情報科学研究科の適当な科目
- ⑤ セミナー(合宿) → 維持 または 各研究科のセミナー科目に移動
- ⑥ 研究室ローテーション → 維持
- ⑦ Pre-QE → 維持

(カ) 2 年次

- ① 融合領域研究 → 維持

(キ) 3 年次

- ① 実践演習(企) → 企業とのイベントに置き換え。発表会?
- ② 融合領域 PJ 研究 → 維持
- ③ インターンシップ、海外インターンシップ、起業 → 必須でなくす 研究科の博士課程単位も可
- ④ 融合領域 PJ PI 研究 → 維持
- ⑤ R-QE → 維持

(ク) 5 年次

- ① 最終審査 → 維持
- ② 修了要件 → 維持 または 変更(来年度入学以降)
  - 1. 英語の学位論文 または 日本語の学位論文
  - 2. 英語で主筆の掲載論文 または 主筆の掲載論文
  - 3. 融合研究成果(論文、国際会議発表) または レポート
  - 4. 英語のプレゼン(最終審査) または 日本語
  - 5. TOEIC730 点 または なし
  - 6. GPI
  - 7. 40 単位 または 36 単位程度

(ケ) その他 (学年共通)

- ① 学生アドバイザー→維持
- ② 産学連携連絡協議会→維持
- ③ 海外短期渡航→維持 または お金があれば維持
- ④ GPI→維持？
- ⑤ 英語トレーニング→大学本部に移行

3) 積極的拡張か縮小かについての議論まとめ

本プログラムの運営の方向性について議論した。継続審議していく。

(ア) 大学本部の意向を聞きつつ活動方針を柔軟に決めることとした。

(イ) 卓越には、あることを前提にしないが、行くことになる準備はタイミングを見て行うこととした。当面、体制を維持する。

(ウ) 来年度、卓越に行く場合は積極方向、そうでなくて、大学で続ける場合は縮小方向。大学からの運営の経済支援動向を注視することとした（履修生の動きはとらわれずに決める）。

(エ) HW のコンソーシアム（どちらの方向性でも立ち上げレガシーを残す）について検討することとした。

- ① 教員、履修生、修了生、企業
- ② アドバイザ：小粥先生、国際アドバイザー委員
- ③ 大阪大学の会、3研究科の会？
- ④ 企業からの共同研究、資金提供受け皿、学生の紹介窓口などを行う
- ⑤ HW の学理追及、社会に還元、人的 NW 形成を目的とする
- ⑥ 年に一度はイベントを開催（研究発表、マッチング、インターン説明など）
- ⑦ IT を活用して情報交換の仕組み

(オ) コア履修生以外の参画

- ① 科目ごとに履修を可とする学生を受け入れる。毎年 40 人程度
- ② 奨学金、必須単位、アドバイザー制度、研究費 PI 権利、学生活動幹事権利、HW 学位はない。
- ③ 融合研究への参加を認める（単位は出す）。年度初めに参加の意思を確認する。
- ④ 年に一度のイベントには参加必須（(エ) ⑥）
- ⑤ D に移る段階でコアと非コアを移動できる
- ⑥ コア履修生以外の受け入れのひとつとして、平成 31 年度大学の高度副プログラムとして研究科から申請する。（幹事部局：情報科学研究科、連携部局：生命機能研究科及び基礎工学研究科）（細田一）8 単位、修了証あり
- ⑦ 情報科学研究科学生はプログラムが提供する科目を履修できる。

(カ) 研究科への定着について

- ① 情報科学研究科の正規カリキュラムの中に HWIP を定着できるかについて課題を洗い出し、可能であれば平成 31 年度に設置することとした。情報科学研究科専攻長会にかけていただく。

(キ) 広報について

- ① 上記の基本方針にのっとり来年度の新入生に対して選抜応募のための広報を実施する。(若宮)
  1. 説明会
  2. 履修要項
- ② 企業とのマッチングイベントを 12 月開催の方向で検討いただく(若宮)
  1. 履修生、修了生の良さを担当企業、担当以外の企業にも見せるマッチングイベント開催を計画
  2. 履修生の研究、融合研究を紹介
  3. 交流(優秀な人材を早めに企業に見せる)
  4. 企業に裏方として参加してもらう
  5. 履修生には 8 月 31 日に説明会を開催

その他

- ① 企業からの共同研究の受け入れ検討(細田一)
  1. 担当教員の責任の明確化が必要
  2. 研究科で受け入れる(国際共創で受け入れるが会計は情報)
- ② クラウドファンディングについて(細田一)
  1. 委任経理金として受け入れ可能
  2. 研究科で受け入れる(国際共創で受け入れるが会計は情報)

今後の予定

第 4 回会議 12 月 20 日(木) 15 時から 17 時(開催未定、必要がなければ実施しない)

参考

8 月 31 日 総長と履修生の懇談会

10 月 12 日 現地視察予定日(実施されるかどうか未定)

11 月 本部、理事、総長とヒアリング対応会議

11 月 21 日 事後評価ヒアリング(東京) 総長、小林理事、尾上 PG 責任者、清水コーディネータ出席予定

## 各組織の提供課目

### 国際共創提供課目(変わりなし)

ヒューマンウェア領域コア科目	必修	選必	選択
ヒューマンウェアイノベーション創出論	2		
ヒューマンウェアセミナーA		4	
ヒューマンウェアセミナーB		4	
ヒューマンウェア領域基礎研究A		6	
ヒューマンウェア領域基礎研究B		6	
ヒューマンウェア融合領域研究A		4	
ヒューマンウェア融合領域研究B		4	
ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究A		4	
ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究B		4	
ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究A			4
ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究B			4
イノベーション実践演習A			4
イノベーション実践演習B			4
ヒューマンウェアインターンシップ	必修	選必	選択
インターンシップ(長期)A		4	
インターンシップ(長期)B		4	
インターンシップ(短期)A		2	
インターンシップ(短期)B		2	
海外インターンシップ(長期)A		4	
海外インターンシップ(長期)B		4	
海外インターンシップ(短期)A		2	
海外インターンシップ(短期)B		2	
ヒューマンウェア価値創造実践		2	
ヒューマンウェア領域基礎科目	必修	選必	選択
ヒューマンウェア基礎論I			2
ヒューマンウェア基礎論II			2
Practical Machine Learning			2
基礎工学研究科提供科目			
情報科学研究科提供科目			
生命機能研究科提供科目			

### 情報科学研究科提供課目(専攻境界)

情報科学研究科開講科目(専攻基礎科目)	単位	
ヒューマンウェアイノベーション創出論M	2	→副プロ
ヒューマンウェアイノベーション創出論D	2	→副プロ
ヒューマンウェア熟議セミナーM	2	→副プロ 必修
ヒューマンウェア熟議セミナーD	2	→副プロ 必修
ヒューマンウェアイノベーション入門M	2	→副プロ
ヒューマンウェアイノベーション入門D	2	→副プロ
ヒューマンウェアコミュニケーションM	2	→副プロ
ヒューマンウェアコミュニケーションD	2	→副プロ
ヒューマンウェアラボローテーションM※	2	
情報科学研究科開講科目(専攻境界科目)	単位	
ヒューマンウェア基礎論IM	2	→副プロ
ヒューマンウェア基礎論ID	2	→副プロ
ヒューマンウェア基礎論IIM	2	→副プロ
ヒューマンウェア基礎論IID	2	→副プロ
ヒューマンウェア価値創造実践D	2	→副プロ
ヒューマンウェアイノベーション実践演習D	4	→副プロ
ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究D	4	→副プロ
ヒューマンウェア国内インターンシップ(短期)M※	2	
ヒューマンウェア国内インターンシップ(短期)D※	2	
ヒューマンウェア国内インターンシップ(長期)M※	4	
ヒューマンウェア国内インターンシップ(長期)D※	4	
ヒューマンウェア海外インターンシップ(短期)M※	2	
ヒューマンウェア海外インターンシップ(短期)D※	2	
ヒューマンウェア海外インターンシップ(長期)M※	4	
ヒューマンウェア海外インターンシップ(長期)D※	4	
ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究D※	4	

※は、ヒューマンウェアイノベーション副プログラムに含まれない  
※は、ヒューマンウェア学位取得コースの学生のみ履修可能  
MIは博士前期、DIは博士後期科目

### (これまで) ヒューマンウェア修得単位の研究科での取り扱い

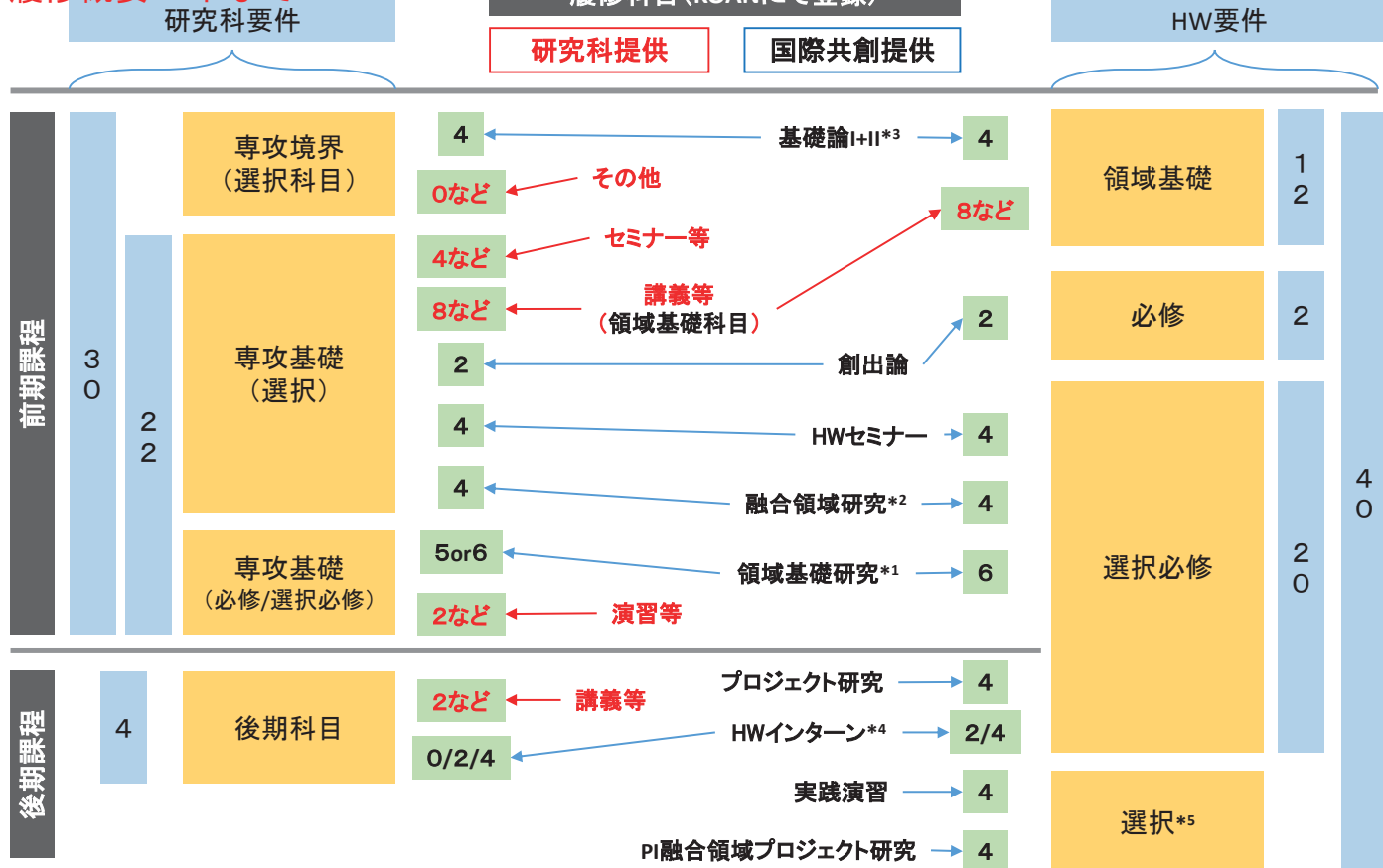
国際共創科目	→ 研究科科目
イノベーション創出論(2単位)	専攻基礎科目【選択】(2単位)
ヒューマンウェアセミナー(4単位)	専攻基礎科目【選択】(4単位)
ヒューマンウェア領域基礎研究(6単位)	各専攻の1年次研究・演習科目(5~6単位)
ヒューマンウェア融合領域研究(4単位)	各専攻の2年次研究科目(3~4単位)
国内インターンシップ(2/4単位)	各専攻のインターンシップ(2単位)
海外インターン長期(4単位)	各専攻の海外インターンシップ(4単位)
ヒューマンウェア領域基礎科目	専攻境界科目【選択】

### (今後) 情報科学研究科修得単位の国際共創での取り扱い

研究科科目	→ 国際共創科目
熟議セミナー+ラボローテ(4単位)	ヒューマンウェアセミナー(4単位)
専攻1年研究等+イノベ入門(7~8単位)	ヒューマンウェア領域基礎研究(6単位)
専攻2年研究等+コミュ(6単位)	ヒューマンウェア融合領域研究(4単位)
各専攻のインターンシップ(2単位)	国内インターン短期(2単位)
各専攻の海外インターンシップ(4単位)	海外インターン長期(4単位)
専攻基礎科目【選択】	ヒューマンウェア領域基礎科目
ヒューマンウェア基礎論I	ヒューマンウェア基礎論I
ヒューマンウェア基礎論II	ヒューマンウェア基礎論II
ヒューマンウェアイノベーション創出論	ヒューマンウェアイノベーション創出論
ヒューマンウェア価値創造実践	ヒューマンウェア価値創造実践
イノベーション実践演習	イノベーション実践演習A
ヒューマンウェア国内インターンシップ(短期)	国内インターン短期(2単位)
ヒューマンウェア国内インターンシップ(長期)	国内インターン長期(4単位)
ヒューマンウェア海外インターンシップ(短期)	海外インターン短期(2単位)
ヒューマンウェア海外インターンシップ(長期)	海外インターン長期(4単位)
ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究	ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究A
ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究※	ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究A※

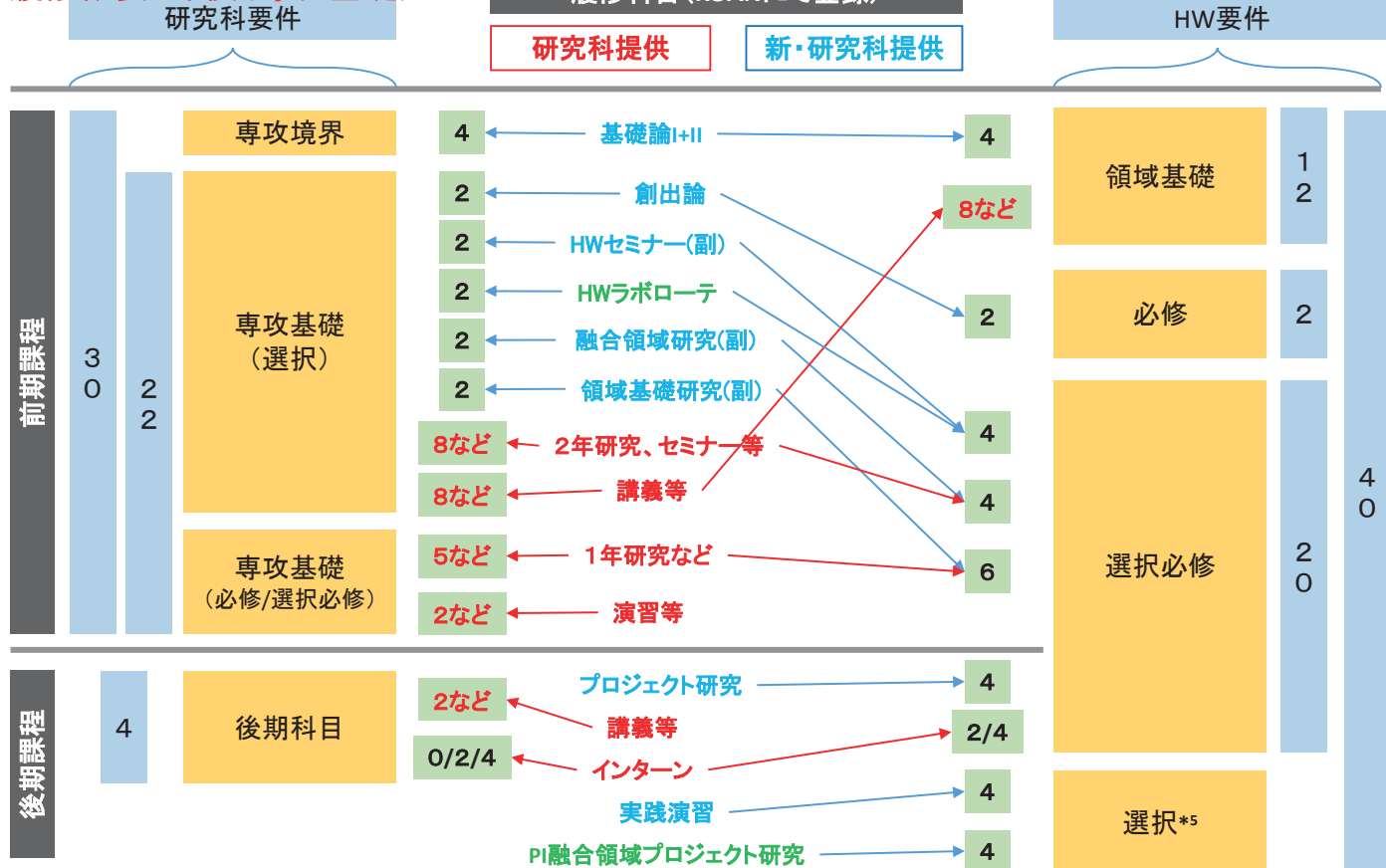
※水色は、ISTの科目をそのまま国際共創に代わる修了要件単位に含めるもの。

## 履修概要:これまで



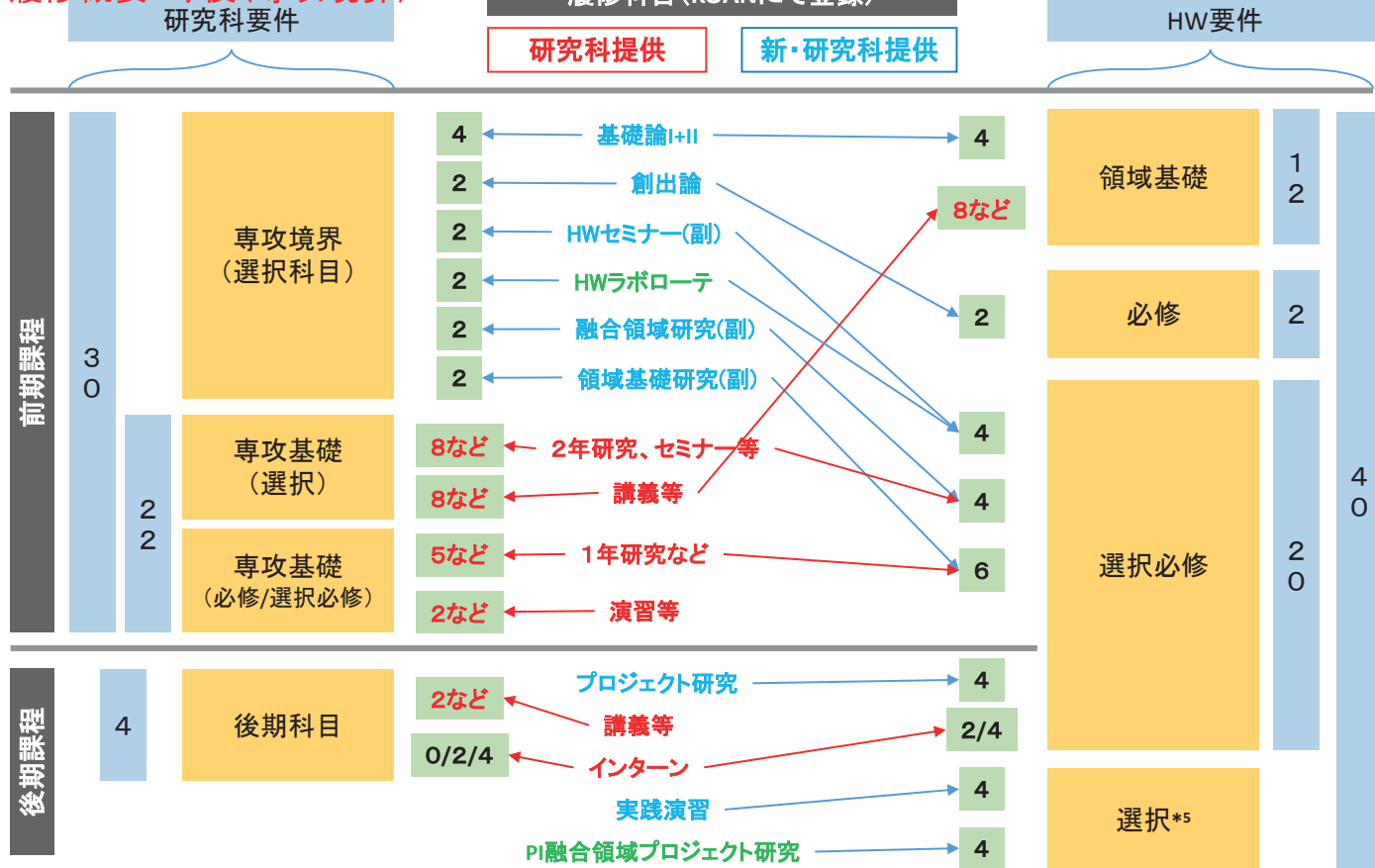
※図の解説: 左側に研究科要件、右側にHW要件があります。中央には履修科目があり、それぞれの科目が研究科とHWの要件のどの枠組みに何単位寄与するかが矢印で示されています。両方に矢印が出ている科目は、その科目のみを履修することで両方に寄与します。黒字科目はHW提供科目であり、PI研究以外は特別な場合を除きすべてを履修してください。赤字は研究科提供科目であり、それぞれの学生で異なりますので、各研究科の各専攻の手引きをよく見て履修してください。

## 履修概要:今後(専攻基礎)



※図の解説: 左側に研究科要件、右側にHW要件があります。中央には履修科目があり、それぞれの科目が研究科とHWの要件のどの枠組みに何単位寄与するかが矢印で示されています。両方に矢印が出ている科目は、その科目のみを履修することで両方に寄与します。緑字科目は国際共創のヒューマンウェア学位プログラムを履修している学生のみが履修できる科目。

## 履修概要: 今後(専攻境界)



※図の解説: 左側に研究科要件、右側にHW要件があります。中央には履修科目があり、それぞれの科目が研究科とHWの要件のどの枠組みに何単位寄与するかが矢印で示されています。両方に矢印が出ている科目は、その科目のみを履修することで両方に寄与します。  
 緑字科目は国際共創のヒューマンウェア学位プログラムを履修している学生のみが履修できる科目。





# 平成31年度各プログラム提案書一覧

(副専攻プログラム)

部局名 : \_\_\_\_\_

NO.	新設 継続	プログラム名称	連携部局	修了 要件 単位数	履修 対象者	英語のみでの 修了可否	授業開講部局所属学生がプログラム履修した場合の工夫 ※一つの研究科開講科目だけで構成される プログラムのみ記入すること。(注)
1							
2							
3							
4							

(高度副プログラム)

NO.	新設 継続	プログラム名称	連携部局	修了 要件 単位数	履修 対象者	英語のみでの 修了可否	授業開講部局所属学生がプログラム履修した場合の工夫 ※一つの研究科開講科目だけで構成される プログラムのみ記入すること。(注)
1	新規	ヒューマンウェアイノベーション副プログラム	生命機能研究科、基礎工学研究科	8単位以上	M・D	不可	提供する全ての科目が、情報科学研究科以外の教員も含んだ合同開講によるものであり、いずれの科目を選択しても幅広い分野の素養を身に付けさせることができる。
2							
3							
4							

(科目等履修生高度プログラム)

NO.	新設 継続	プログラム名称	連携部局	修了 要件 単位数	履修 対象者	英語のみでの 修了可否	備考
1							
2							
3							
4							

(※注) 一つの研究科開講科目のみで構成されているプログラムにおいては、当該研究科所属の履修者でも各プログラムの趣旨や目的(下記申合せに記載)に添ったプログラムを修了できるよう工夫を取り入れ、その具体的な内容を記入してください。  
 なお、上述下線に該当しないプログラムは記入不要です。また、大学院科目等履修生高度プログラムにおいても記入不要です。

【参考】

大阪大学大学院副専攻プログラムに関する申合せより抜粋

(趣旨及び目的)

第1条

2 副専攻プログラムは、本学大学院学生に主専攻に準ずる専門的素養又は幅広い分野の素養を培わせることにより、もって複眼的視野を獲得させることを目的とする。

大阪大学大学院等高度副プログラムに関する申合せより抜粋

(趣旨及び目的)

第1条

2 高度副プログラムは、本学大学院学生等に幅広い分野の深い素養を体系的に身に付けさせるとともに、高度な専門性の獲得及び勉学意欲を喚起させることを目的とする。

平成31年度 大阪大学大学院等高度副プログラム提案書（新設・継続・募集停止・募集再開）

平成30年 月 日

プログラム名	和文	ヒューマンウェアイノベーション副プログラム
	英文	Humanware innovation subprogram
提案（幹事）部局	部局名	情報科学研究科
	実施責任者 （所属・職名・氏名）	情報科学研究科・研究科長・尾上孝雄
連携部局	生命機能研究科、基礎工学研究科	
履修対象者 ※該当以外を削除	学部5、6・修士・博士	
修了要件	8単位以上	
趣旨・概要	情報技術の類まれな発展により人間や機械が情報ネットワークを介して密接につながり合うことで、人間と人間、人間と環境・機械との間で予測困難な課題が生じており、また情報システムが人間や環境にかけられる負担も急速に増大しています。このように激変する情報社会では「生命システムなどが持つ仕組みを有し、人間・環境に調和した情報社会を構築する新しい技術：ヒューマンウェア」の確立が急務です。本プログラムでは、このヒューマンウェアという視点から、「情報科学、生命科学、認知・脳科学」の包括的な理解の下で、これらの融合から自ら課題を設定し、グループを組織・牽引してそれを解決することにより、新しいイノベーションへと導く人材を育成します。	
到達目標（修了時に身に付く能力）	本プログラムでの学習を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与します。 ①ヒューマンウェアという視点をもってイノベーションの方向性の転換を考えられる能力。 ②情報科学、生命科学、認知・脳科学の分野を横断的に考え、議論できる能力。 ③課題設定とグループによる解決に挑戦できるデザイン力、コミュニケーション力、マネジメント力。 ④専門分野や立場、国や文化などが異なる多様な人と協働できる能力。	
カリキュラムの構成	上記の教育目標を達成するために、学生がそれぞれの目的に応じて自主的に成長するための科目を提供しています。例えば、異分野の学生が集まり、時には教員も取り込み、チームにて課題を設定して挑む中で、上記能力を獲得します。講義から学ぶことよりも、人とのつながりと自身の行動や思考による成長を想定しています。また全ての学生に画一的な教育を提供するのではなく、ヒューマンウェアという概念に焦点を当てながら、できる限り個々の学生の目的や個性に合わせた教育の場を提供すると同時に、学生によるプログラムの改善と発展も歓迎します。	
履修資格・条件	選抜のうえ、受講者を決定します。 情報科学、生命科学、認知・脳科学およびその複合領域についての関心があり、異分野の論点を理解するための強い好奇心、対象を多面的に捉えるための柔軟性と無邪気さ、異分野交流に必要なコミュニケーションの意欲を持つ学生を歓迎します。	
前提知識の目安	文系理系を問わず様々な分野の学生の受講を期待します。	
特記事項		

構成科目

時間割コード	授業科目名	単位数			開講学期 （4学期制）	開講部局（課程）	備考
		必修	選必	選択			
	ヒューマンウェアイノベーション創出論M			2	秋～冬学期	情報科学研究科（博士前期）	①
	ヒューマンウェアイノベーション創出論D			2	秋～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①
	ヒューマンウェア熟議セミナーM		2		春～冬学期	情報科学研究科（博士前期）	①②③④ 集中
	ヒューマンウェア熟議セミナーD		2		春～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①②③④ 集中
	ヒューマンウェアイノベーション入門M			2	春～冬学期	情報科学研究科（博士前期）	①③④ 集中
	ヒューマンウェアイノベーション入門D			2	春～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①③④ 集中
	ヒューマンウェアコミュニケーションM			2	春～冬学期	情報科学研究科（博士前期）	③④ 集中
	ヒューマンウェアコミュニケーションD			2	春～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	③④ 集中
	ヒューマンウェア基礎論IM			2	春～夏学期	情報科学研究科（博士前期）	①②
	ヒューマンウェア基礎論ID			2	春～夏学期	情報科学研究科（博士後期）	①②
	ヒューマンウェア基礎論IIM			2	秋～冬学期	情報科学研究科（博士前期）	①②③④
	ヒューマンウェア基礎論IID			2	秋～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①②③④
	ヒューマンウェア価値創造実践D			2	春～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①③④
	ヒューマンウェアイノベーション実践演習D			4	春～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①③④ 集中
	ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究D			4	春～冬学期	情報科学研究科（博士後期）	①②③④ 研究

※学生は、上位課程の科目を履修できません（例えば、博士前期課程の学生による博士後期課程科目履修等）ので、履修対象者が複数の課程にわたる場合は、科目構成等に留意ください。

※学生向け案内冊子の原稿作成にあたり、同一の項目については本提案書の記載事項をそのまま流用しますのでご留意ください。

## 平成31年度 副専攻/高度副/高度プログラム実施部局メッセージ

※新規又は昨年度より変更がある場合のみご提出ください。

プログラム名	ヒューマンウェアイノベーション副プログラム	<p>* 写真データ (上半身・顔) 貼付欄</p>
実施部局等	情報科学研究科	
担当教員名(1名)	清水浩	
キーワード 15文字以内推奨 (25文字が限度)	融合研究、イノベーション	

### プログラム説明: 300文字～500文字以内

[プログラムのねらいや特徴、どういう人に学んでもらいたいかな等、アピールポイントを端的に説明してください。  
写真、図等は貼付けできませんのでテキストのみでお願いします。]

情報技術の類まれな発展により、人間と人間、人間と環境・機械との間で予測困難な課題が生じており、また情報システムが人間や環境にかかる負担も急速に増大しています。このように激変する情報社会では「生命システムなどが持つ仕組みを有し、人間・環境に調和した情報社会を構築する新しい技術:ヒューマンウェア」の確立が急務です。本プログラムでは、このヒューマンウェアという視点から、「情報科学、生命科学、認知・脳科学」の包括的な理解の下で、これらの融合から自ら課題を設定し、グループを組織・牽引してそれを解決することにより、新しいイノベーションへと導く人材を育成します。

具体的には、様々な学生が、それぞれの目的に応じて自主的に成長するための、主に実践を通じた学びを提供しています。例えば、異分野の学生が集まって、必要な場合には教員を取り込み、チームにて課題を設定して解決するという実践の中で、必要な能力を身に付けてもらいます。特に、講義を聞いて学ぶということよりも、様々な学生や教員とのつながりや、自身の行動と思考により成長することを想定しています。

文系理系を問わず、上記に関心があり、意欲のある学生を歓迎します。

プログラム詳細(URL):

<http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/>

### 【留意事項】

キーワード: 16文字以上はサイズ縮小の際にデザインの崩れが起きる可能性があるため、15文字以内を推奨します。(25文字が限度)

プログラム説明: ・メッセージの内容について、300文字～500文字の範囲で記入をお願いします。  
(スマートフォンでのワンスクロール分が文字数上限となります。)

- ・新ページの移行にあたりテキストのみの表示になるため図・表は掲載されません。
- ・ホームページに掲載される場合はURLをご記入願います。

プログラム詳細(URL): プログラムシラバスへのリンクが追加されます。





## 大阪大学における大学院教育改革の核として定着・発展 国際共創大学院推進機構（仮称）の設置（PO訪問時2018.05）

大学院教育改革WG

大学院長（総長）

教育担当理事

先導的学際研究機構

これまでの  
取り組みを発展

### 国際共創大学院推進機構

汎用性と独創性を備えた  
「知のプロフェッショナル」  
の育成と輩出リーディング大学院A  
リーディング大学院B  
リーディング大学院C  
ヒューマンウェアイノ  
ベーションプログラム  
リーディング大学院E研究科（専門）学位と連  
携による内実化学生研究員制度  
による経済支援産学・海外連携による  
共同研究所の設置産学・海外連携による  
共同研究・教育産学連携による  
カリキュラムの設計学内教員の移動  
による質の向上

最終審査

R-QE

5年

一貫

教育

Pre-QE

大学院入試  
合格者から選抜

学内組織

大阪大学全体への  
教育効果の波及

産学共創機構

国内外 企業連携

- 企業のエデュケーションへの参画
- 学生研究員制度
- 共同講座、共同研究所の設置
- 社会人の学び直し

世界トップレベルの拠点連携



海外連携

上海交通大学 ワシントン大学  
南洋工科大学 イタリア工科大学  
北京大学 ビーレフェルト大学  
シドニー大学 カリフォルニア大学

教育改革の成果	リーディング大学院(5件)
	グローバルCOE(12件)
	二十一世紀COE(15件)
国際化	多様な言語教育リソース(24言語)
	海外フィールドワーク(GLOCOL H20)
汎用力育成	コミュニケーションデザイン教育(CSCD, HIT)
	高度教養・知のガバナステック(H23, 39.0科目)



## 大阪大学における大学院教育改革の核として定着・発展 国際共創大学院推進機構の設置（2018.08-10）

大学院教育改革WG

大学院長（総長）

教育担当理事

先導的学際研究機構

これまでの  
取り組みを発展

### 国際共創大学院推進機構

汎用性と独創性を備えた  
「知のプロフェッショナル」  
の育成と輩出リーディング大学院A  
リーディング大学院B  
リーディング大学院C  
ヒューマンウェアイノ  
ベーションプログラム  
リーディング大学院E研究科（専門）学位と連  
携による内実化学生研究員制度  
による経済支援産学・海外連携による  
共同研究所の設置産学・海外連携による  
共同研究・教育産学連携による  
カリキュラムの設計学内教員の移動  
による質の向上

最終審査

R-QE

5年

一貫

教育

Pre-QE

大学院入試  
合格者から選抜

学内組織

大阪大学全体への  
教育効果の波及

産学共創機構

国内外 企業連携

- 企業のエデュケーションへの参画
- 学生研究員制度
- 共同講座、共同研究所の設置
- 社会人の学び直し

世界トップレベルの拠点連携



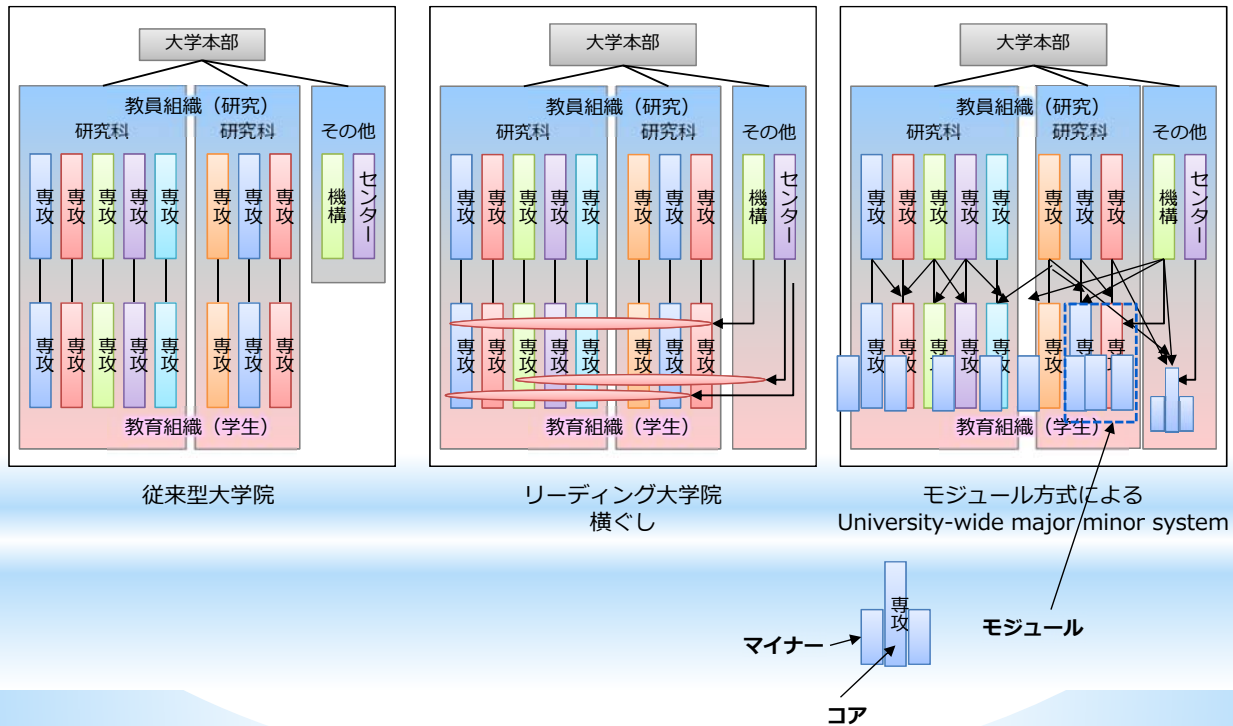
海外連携

上海交通大学 ワシントン大学  
南洋工科大学 イタリア工科大学  
北京大学 ビーレフェルト大学  
シドニー大学 カリフォルニア大学

情報科学研究科正規科目  
情報科学研究科  
生命機能研究科  
基礎工学研究科



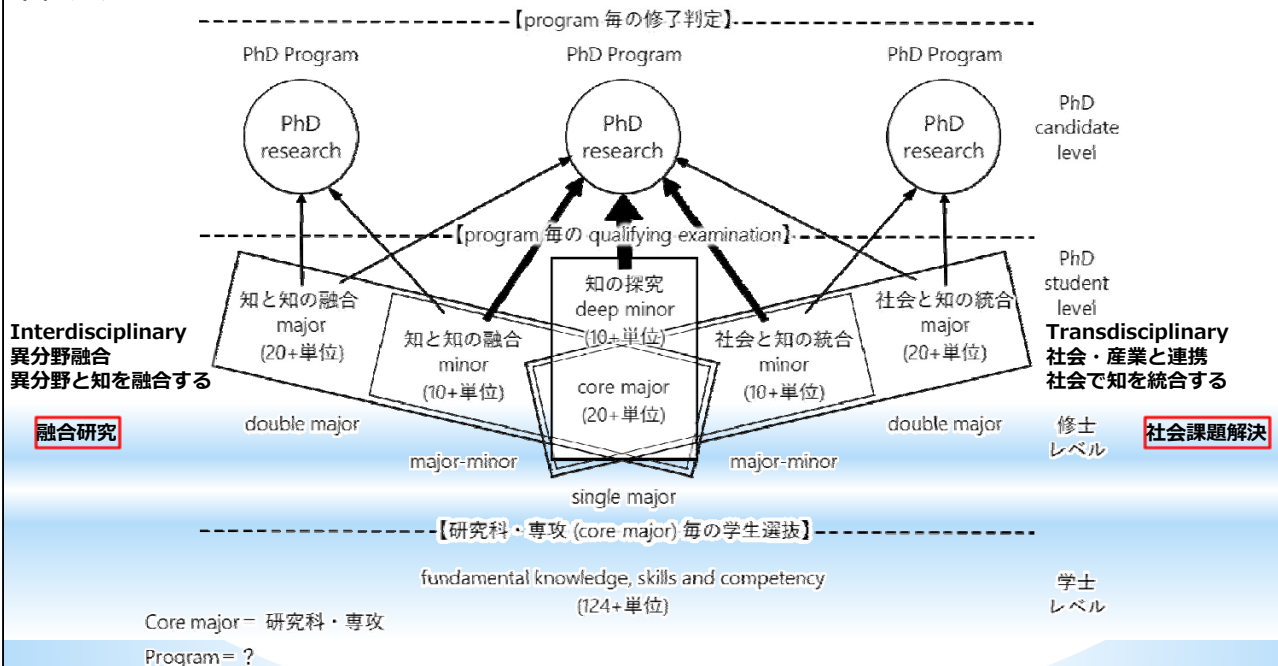
## モジュール方式によるヒューマンウェアイノベーションの大学、研究科への内在化



## 大阪大学の大学院改革ビジョンを具現化するHWIP

ヒューマンウェアの  
仕組みを発展

### “University-wide major minor system”







## 大阪大学における大学院教育改革の核として定着・発展 1

### 学位プログラムの定着・学位審査体制の整備

- ヒューマンウェアイノベーション博士課程教育プログラムの成功（補助金終了後も履修生を選抜・育成を実施する）。
- 異なる専門分野（主指導教員・分野の異なる教員・学外の委員）による学位審査体制の構築。
- 全学の大学院教育改革の核となり大学院改革ビジョン制定の下、定着発展させる。

### 組織体制の整備・教員組織の再編

- リーディング大学院を国際共創大学院プログラム推進機構のもとで定着・発展させる。
- 全学的支援の下、プログラムを運営する教職員ポストを配置する。
- 分野を超えて時代の要請に応じて教育を提供するモジュールを産学の協力により整備し、産学共創の「場」において柔軟な教育を展開する。

### ヒューマンウェアの体系化・発展・内実化

- 生命、認知・脳分野、情報のダイナミクスを理解し、展開する分野ヒューマンウェアを体系化していく。（情報科学研究科の正規カリキュラム（H31年度-））
- 全学的には副プログラムとして展開する。
- 外付けの副専攻型プログラム→「融合分野を先導（知と知の融合）」、「社会との連携（社会で知を統合）」を促進する分野として充実させ、大学、研究科に内実化させる。



## 大阪大学における大学院教育改革の核として定着・発展 2

### 産学官民によるインターンシップの運営

- 産学連携連絡協議会を補助金終了後も維持、運営
- インターンシップ、学生アドバイザー制度、最終審査委員会を継続実施。

### 産学共創により学生を支援

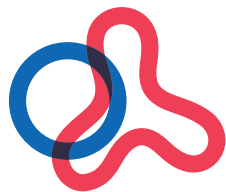
- 大阪大学と企業の包括協定締結により共同研究に学生を参加させ、リサーチアシスタントとして経済支援を受ける仕組み「学生研究員制度」を平成29年度に既に導入している。
- パナソニック、ダイキン工業など情報科学と密接に結びつく企業の参画により学生研究員制度を本プログラムにも取り込んでいく。
- 全学的支援の下、産学共創機構と連携し研究と教育を連携させる。

### 経済的支援について

- 総長のリーダーシップのもと、H30年度よりプログラム定着発展のため、大学としてプログラムの経済支援を開始（H30年度：研究科と合わせて14百万円程度支援、H31年度より1.2億円程度支援）
- 奨励金に代わる学生への経済支援を大学として実施（返還の必要がない奨学金：M2万円・D3万円/月）、RA制度と併用。全学でD授業料免除採用。（称号）







Osaka  
University  
Humanware  
Innovation  
Program

求めるのは、ヒューマンウェアという新たな視点をもって  
イノベーションの方向性を転換できるリーダー

2/20～2/27  
願書受付  
3/12 面接試験

#### 募集人数

〈一般選抜〉 20名前後

〈特別選抜〉 若干名

#### 出願資格

〈一般選抜〉

大阪大学大学院情報科学研究科(情報数理学専攻、コンピュータサイエンス専攻、情報システム工学専攻、情報ネットワーク学専攻、マルチメディア工学専攻、バイオ情報工学専攻)、基礎工学研究科(機能創成専攻、システム創成専攻)のいずれかの博士前期課程、あるいは生命機能研究科(生命機能専攻)博士課程に、平成31年4月に入学予定の者。

〈特別選抜〉

大阪大学大学院情報科学研究科(情報数理学専攻、コンピュータサイエンス専攻、情報システム工学専攻、情報ネットワーク学専攻、マルチメディア工学専攻、バイオ情報工学専攻)、基礎工学研究科(機能創成専攻、システム創成専攻)のいずれかの博士前期課程に、平成30年4月もしくは10月に入学した者。あるいは大阪大学大学院生命機能研究科(生命機能専攻)博士課程に、平成30年4月に入学した者。

※両選抜枠共に他の博士課程教育リーディングプログラムを重複して履修することはできません。

# 2019年度七期生 募集

Please visit our website for English version of this flyer!

<http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/>

ヒューマンウェアアイノベーション博士課程プログラム

## 選抜プロセス



## 出願に関する書類

1	〈一般選抜〉 本学大学院合格通知書(写し) 又は 大阪大学大学院合格証明書(様式1)	本学大学院合格通知書(写し)がない場合は、所定の用紙に、合格した研究科長名で証明したもので可。
	〈特別選抜〉 本学大学院在学証明書	
2	履歴書(様式2)	【書類選考の対象】 所定の用紙に記入してください。英語力検定試験(TOEIC、TOEFL、IELTS、その他)の成績について記載する場合は、スコア等を証明する書類の写しを添えて提出してください。
3	出願理由書(様式3)	【書類選考の対象】 アドミッション・ポリシーを熟読した上で、所定の用紙に記入してください。
4	評価書(様式4)	【書類選考の対象】 出願者のことをよく知る大学教員(出願者の卒業研究指導教員、大学院での受入れ予定教員等)が所定の用紙に記入し、厳封の上、提出してください。自己評価は不可。
5	履修願書(様式5)	所定の用紙に記入してください。
6	〈一般選抜のみ〉 卒業(見込)証明書	出身大学長等が作成したもの。
7	成績証明書	〈一般選抜〉出身大学長等が作成したもの。 〈特別選抜〉1.本学大学院入学前の最終学歴についての成績証明書(出身大学長等が作成したもの)。 2.在籍中の本学大学院の成績証明書。
8	受験票・写真票(様式6)	所定の用紙に写真(3か月以内に撮影)を貼付し、記入してください。
9	受験票送付用封筒	長形3号(縦23.5cm×横12cm)の封筒に宛先を明記し、82円分の切手を貼付してください。

## 出願手続き

- 出願方法……………郵送又は願書受理場所への持参
- 願書受付期間…平成31年2月20日(水)～27日(水) (受付時間……………午前9時30分～同11時30分、午後1時30分～同4時)
- 願書受付場所…大阪大学 大学院情報科学研究科B棟6階(602号室)  
ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム 事務局
- 出願書類……………出願に関する書類(一覧表の1～9)
- 郵送の方法……………〈宛先〉〒565-0871大阪府吹田市山田丘1-5 大阪大学 大学院情報科学研究科B棟6階  
ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム 事務局  
※角形2号(縦33 cm×横24 cm程度)の封筒を利用し、必ず「書留」郵便で送付してください。  
※願書受付期間内必着とします。  
※封書の表に「一般選抜」「特別選抜」のいずれであるかを赤字で記載してください。

## 選抜についての注意

- (1) 受験票(受験番号)は、出願手続後、受験票送付用封筒にて郵送します。
- (2) 書類選考は、履歴書、出願理由書、評価書により実施します。書類選考の合格発表はプログラムホームページに受験番号を掲載することにより行います。
- (3) 選抜(面接)試験は、書類選考合格者のみ受験できます。試験場所などの詳細な注意事項は、プログラムホームページにて発表します。
- (4) 最終合格者については、プログラムホームページに受験番号を掲載することにより発表するとともに、合格書類を願書記載住所へ送付します。電話、メールによる可否の問い合わせには応じません。
- (4) 履修者選抜に合格した場合は、履修手続が必要となります。プログラムを履修することによる追加の入学科・授業料は必要ありません。

## 経済支援について

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムでは、次のような経済支援を準備しています。

## 【給付奨学金】

履修生からの受給申請に基づき、選考を経た上で給付奨学金を支給します。

2019年度の給付額は情報科学研究科、基礎工学研究科の博士前期課程、生命機能研究科博士課程1・2年次については月額20,000円、情報科学研究科、基礎工学研究科の博士後期課程、生命機能研究科博士課程3年次以上については月額30,000円を予定しています。(課税対象にはなりません。)

なお、給付額は年度ごとに決定します。上記給付予定額は2019年度の額です。

## 【授業料免除】

プログラムを履修する者のうち、情報科学研究科、基礎工学研究科の博士後期課程、生命機能研究科の博士課程3年次以上に在籍(標準修業年限内の者に限る)する学業成績が優れている者で、プログラム責任者から授業料免除適格者として推薦を受けた者を授業料免除の対象者とします。

※これらの制度は、毎年度の本学の財政およびその他の状況を勘案して実施するため、今後内容等の変更があり得ることにご留意ください。

※給付奨学金、授業料免除以外にも、プログラムを履修するうえでさまざまな形の支援を用意しています。

## 注意事項

- (1) 出願書類に不備のある場合は受理できません。
- (2) 出願手続後は、原則として記載事項の変更は認めません。
- (3) 出願時に提出された書類は返却しません。
- (4) 出願書類に虚偽の記載をした者は、履修決定後であっても履修の許可を取り消すことがあります。
- (5) 身体に障害等がある者で、受験に際して特別な配慮を希望する場合は、原則として願書受付期間内にプログラム事務局へ問い合わせてください。

## 個人情報の取り扱いについて

- (1) 出願時に提出された氏名、住所、その他の個人情報については、「履修者選抜(出願処理、選抜試験実施)」、「合格発表」、「履修手続」等の業務及びヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムに関する業務を行うために利用します。
- (2) 履修者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、選抜結果の集計・分析及び履修者選抜方法の調査・研究のためのみに利用します。

出願書類(様式1～6)、および詳細についてはプログラムホームページをご確認ください。

<http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/>





# Humanware Innovation Program

OSAKA UNIVERSITY



Osaka  
University  
Humanware  
Innovation  
Program

## プログラム概要 Program Guidelines

大阪大学 博士課程教育リーディングプログラム

ヒューマンウェアイノベーション  
博士課程プログラム

大阪大学 未来戦略機構 第四部門

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム 事務局

Humanware Innovation Program, Administrative Office

Tel : 06-6879-4349 / Email : [info@humanware.osaka-u.ac.jp](mailto:info@humanware.osaka-u.ac.jp)

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-5 大阪大学大学院情報科学研究科

Graduate School of Information Science and Technology, Osaka University  
1-5 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871, Japan

<http://www.humanware.osaka-u.ac.jp>





# ハードウェア、ソフトウェアに次ぐ第三のウェア!

## ヒューマンウェアによって今こそパラダイムシフトを起こす博士人材の育成を

Now is the time to create a paradigm shift with humanware

### 「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」の意義と理念

ハードウェア、ソフトウェア両面における情報技術の類まれな発展によって、人間や機械が情報ネットワークを介して密接につながり合い、複雑なダイナミクスを持つ巨大なネットワークを構築しています。その結果、人間と人間、人間と環境・機械との間で予測困難な課題が次々に生じており、また、情報システムが人間や環境にかける負担も急速に増大しています。

このように激変する情報社会では、生命システムなどが持つ仕組み（柔軟性、頑強性、持続発展性）を有し、人間・環境に調和した情報社会を構築するための、情報技術としてのヒューマンウェアの確立が急務です。

ヒューマンウェアに関する技術を習得するには、変化する環境に適応し、進化してきた生物の「生体ダイナミクス」、人間や環境に調和した情報社会を構築するための「情報ダイナミクス」、情報を受け取って理解し、新たな情報を生み出す人間の「高次脳機能」としての「認知ダイナミクス」を包括的に理解することが必要です。

本学位プログラムでは、このようなヒューマンウェアという新たな視点から、絶えず変化する社会環境を支え、柔軟性、頑強性、持続発展性を有するシステムを構築できる卓越したリーダー人材を、徹底した融合研究（斉同熟議）により育成します。具体的には、三つのダイナミクスの包括的な理解の下で、自ら課題を設定し、グループを組織・牽引してそれを解決することにより、災害時にも自律的復旧が可能な社会ネットワークを構築し、さらに、世代や立場を超えた人間同士のコミュニケーションやコミュニティ形成を促進する人間中心の情報技術を開発することによって、イノベーションの方向を転換へと導く人材を育成します。

### プログラムの特色

1. 徹底した融合研究（斉同熟議）により、ヒューマンウェアという新たな視点をもってイノベーションの方向性を転換できるイノベーション牽引リーダーを養成する。
2. 情報科学研究科、生命機能研究科、基礎工学研究科の密接な連携により、他の領域の専門知識を獲得して自身の領域にフィードバックする双方向性を備えたネットワーク型博士を生み出す。
3. 世界をリードする企業、先導的研究機関（CiNet、QBiC）とイノベーション創出メカニズムを共有し、実践的なデザイン力、コミュニケーション力、マネジメント力を涵養する。
4. 海外拠点 / 海外連携研究機関を通じて優れた留学生を受け入れる。日本人学生とともに将来日本と世界との架け橋となり、国際的に活躍するグローバルリーダーを育てる。
5. 2度の資格審査（Pre-QE、R-QE）によって、融合研究の企画提案力と遂行力を評価する。
6. 自ら課題を設定し、グループを牽引して課題を解決できるリーダーに必要な資質を GPI スキル審査で保証する。
7. 企業・研究機関インターンシップ（短期 / 長期）、海外インターンシップ（短期 / 長期）、サマーキャンプ、研究キャラバンなど、学外の国際的研究機関での研究機会を提供する。

### Features of the Program

1. Provides intensive interdisciplinary studies (*Seido Jukugi*) to cultivate students' skills to become innovation leaders who can shift the direction of innovation with a new viewpoint: humanware.
2. Involves close coordination among the Graduate School of Information Science and Technology, the Graduate School of Engineering Science, and the Graduate School of Frontier Biosciences, enhancing students' networking ability and fostering their bi-directional performance to acquire professional expertise in other fields and feed it back to their own field.
3. Shares innovation-creating mechanisms with world-leading companies and research institutes (CiNet, QBiC) to enhance students' abilities of practical design, communication, and management.
4. Accepts foreign students with excellent performance through overseas centers and research institutes, and fosters global leaders who will build a bridge between Japan and the world, and be active internationally.
5. Through two qualification examinations (Pre-QE and R-QE), evaluates students' abilities to propose and implement plans for interdisciplinary studies.
6. Through the GPI skill examination, ensures that students acquire the abilities to become leaders who can set their own agendas or challenges and solve them through collaboration.
7. Provides students with research opportunities in international research institutes outside the university, including corporate/research internships (short-/long-term), overseas internships (short-/long-term), summer camps, and research caravans.

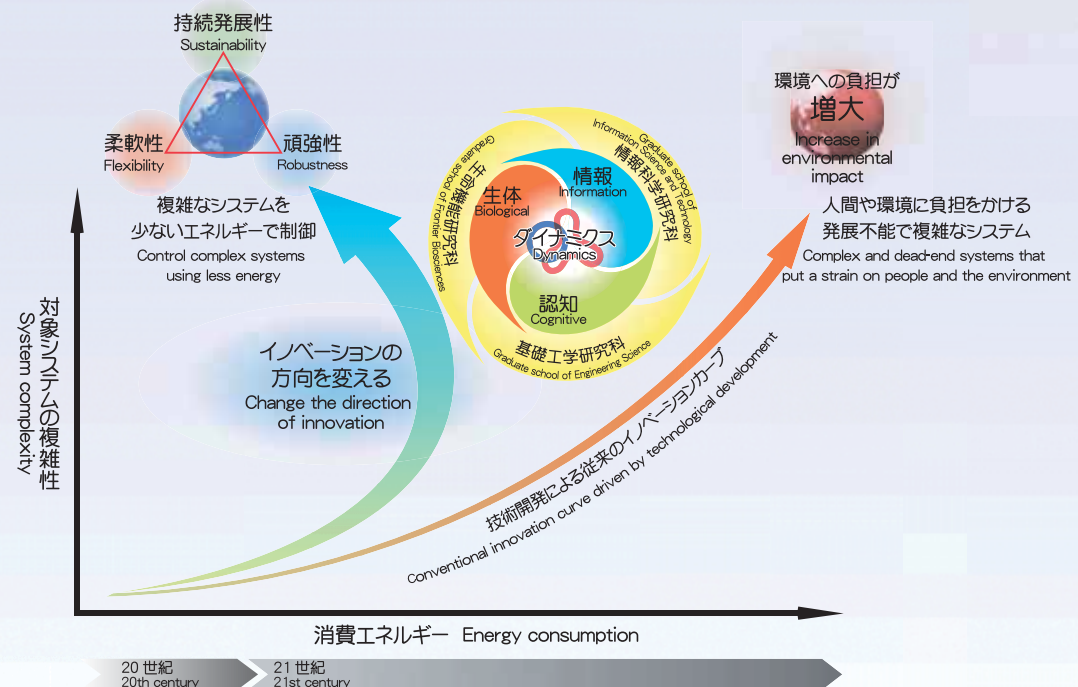
### Concepts and main aims of the Humanware Innovation Program

Information technology has developed remarkably in terms of both hardware and software. People and machines are now closely interconnected through information networks which together form a complex and dynamic large-scale network. As a result a range of unpredictable problems emerge in interaction among humans and between humans, machines, and the environment. In addition, information systems puts a growing burden on both humans and the environment.

One urgent challenge in this rapidly changing information society is the development of humanware: information technology that employs the same mechanisms as are found in flexible, sustainable, and robust biosystems to create an information society attuned to both humans and the environment.

In order to develop expertise related to humanware, it is essential to comprehend the “biological dynamics” of organisms that adapt and evolve in dynamically changing natural environment. It is also necessary to understand the “information dynamics” required to construct an information society attuned to both humans and the environment, and “cognitive dynamics,” the dynamics of higher brain functions that generate new information.

This degree program provides intensive interdisciplinary studies (*Seido Jukugi* : in-depth discussion) to foster leaders who can construct flexible, robust, and sustainable systems that support an ever-changing social environment by introducing an entirely new concept: humanware. The program fosters a self-directed approach to identifying problems and to organizing and leading group work to address those problems, founded on an integrated understanding of the three types of dynamics mentioned above. Graduates will make significant contributions to shifting the direction of innovation by constructing social networks that can recover autonomously in the event of a disaster, and developing human-oriented information technology that encourages close communication and builds new communities beyond generations and differences of position and philosophy.



## 選抜方法

本学位プログラムを履修する学生は、書類審査と面接により選抜されます。対象となる学生は大阪大学大学院情報科学研究科（情報数理学専攻、コンピュータサイエンス専攻、情報システム工学専攻、情報ネットワーク学専攻、マルチメディア工学専攻、バイオ情報工学専攻）、大阪大学大学院基礎工学研究科（機能創成専攻、システム創成専攻）のいずれかの博士前期課程、あるいは生命機能研究科（生命機能専攻）の博士5年一貫制課程の入学予定者です。

※ 他の博士課程教育リーディングプログラムと重複して履修することはできません。

※ 上記いずれかの専攻の1年次に在籍する者に対しても若干名の枠を設ける場合があります。

※ 選抜方法・日程・応募用紙の提出先等の詳細については、別途募集要項をご確認ください。

### ＜求める学生像＞

- 本学位プログラムで求めているのは、例えば次のような資質を有する学生です。
- 情報科学、生命科学、認知・脳科学およびその複合領域についての高い関心
  - 異分野の論点を理解するための強い好奇心と理解力
  - 対象を多面的に捉えるための柔軟性と無邪気さ
  - 専門分野を超えた交流に必要なコミュニケーション力
  - 世界的に活躍できる国際的視野
  - 難しい問題に正対する勇氣と、これを乗り越えるための忍耐力



## Admission to the Program

Applicants for this program are selected through a written examination and interview. To be eligible to apply, students must have been accepted for admission to the first semester of a doctor's course or a master's course in one of the following departments of Osaka University: Departments of Information and Physical Sciences, Computer Science, Information Systems Engineering, Information Networking, Multimedia Engineering, and Bioinformatic Engineering, Graduate School of Information Science and Technology; Department of Mechanical Science and Bioengineering and Department of Systems Innovation, Graduate School of Engineering Science; Department of Frontier Biosciences, Graduate School of Frontier Biosciences, Osaka University.

\* Students cannot be registered for other Leading Graduate Course Doctoral Programs concurrently.

\* In some cases there may be a small intake of students already enrolled in the first year of their course in one of the departments shown above.

\* For information on the selection process, important dates, and application submission details, please see the application guide issued separately.

### ＜Desired qualifications＞

- In this degree program, we welcome students with the following qualities:
- Strong interests in information science, life science, cognitive/brain science, and their integrated fields

### 【左記を以下に変更】

本学位プログラムでは、履修学生を対象に、学生の受給申請に基づき、選考を経た上で給付奨学金を支給する制度を設けています。また、プログラムを履修する者のうち、情報科学研究科、基礎工学研究科の博士後期課程、生命機能研究科博士課程3年次以上に在籍（標準修業年限内のものに限る）する学業成績が優れている者に対する授業料免除制度があります。（これらの制度は、毎年度の本学の財政およびその他の状況を勘案して実施するため、今後内容等の変更があり得ることにご注意ください。）

上記支援の他にも、特任教員や他分野の学内教員、さらには企業等の学外プログラム担当者が学生のメンターとなり、個別アドバイスや、異分野領域についての指導を行う「メンター制度」を取り入れています。

また、上記給付奨学金といった個人への支援のほかに、履修生が行う専門分野や融合分野の研究のうちプログラムが認めた研究に対する「研究費の助成」、プログラムで提供する国内研修・海外研修に係る「研修経費の支援」も行っています。

さらに、履修生の自主的活動を支援する「学生企画活動支援」も行うなど、履修生を多方面からサポートする支援体制を整えています。

## カリキュラム概要

本学位プログラムでは、大阪大学の大学院、情報科学研究科・生命機能研究科・基礎工学研究科が密に連携し、目標とするリーダーの育成のために「斉同熟議」の理念に基づいた融合研究を中心に、カリキュラムを編成しています。特に、次世代を牽引する人材育成のため、自主性・自発性に重点を置いています。

本学位プログラムの履修を完了して、専門分野の学位を取得し、プログラム委員会の修了審査でヒューマンウェアイノベーションをリードできる博士人材として認定された者には、「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」を修了した者として学位記に付記されます。

### ＜教育プログラムの主な内容＞

○ヒューマンウェア領域基礎科目

情報、生命、認知・脳科学領域の基礎を身につけるための科目です。それぞれの研究科が主となって提供する科目のほか、プログラム独自に各分野の基礎をまとめた科目も提供します。

○融合研究（斉同熟議）

異なる専門をもつ3つの研究科により、既存の分野にとらわれない研究の機会を提供します。1・2年次には研究室ローテーションや合宿での密な議論、3年次以降には研究計画・予算獲得から遂行・報告までを学生主体で進める融合領域プロジェクト研究などを通じ、ヒューマンウェア融合研究を行います。また異なる研究科教員との融合研究への参画の機会なども提供します。自主性を重んじ、異分野の履修生間での交流、および3研究科の教員との交流を通じた、幅広い視点からの密な議論を常時基盤として進めます。

○産学連携科目

新しいイノベーションの創出のために、産業界の視点を取り入れるための科目を提供します。具体的には、まず1年次の前期に基礎的な産学講義・企業訪問を含む数日の集中講義を行い、産業界の視点を学びます。次に、各種分野の企業や研究所からの特別講師による、イノベーション、研究・開発の戦略、プロジェクトの企画立案などに関するセミナーである、イノベーション創出論を提供し、社会を全体から見渡す俯瞰的視点を学びます。さらに3年次以降には、企業との協同により、融合領域における研究・開発の戦略、プロジェクトの企画・立案、プロジェクト運営・実施、プロジェクト成果の産業技術化に関する実践演習を提供します。

○その他

各学生に対し、専門の教員に加え、異分野の教員、および企業からのメンバーがアドバイザーとしてつき、年に2回、研究やキャリアパスなどのアドバイスをを行うアドバイザー制度や、海外インターンシップやサマーキャンプ、研究キャラバンなどの様々な教育制度があります。

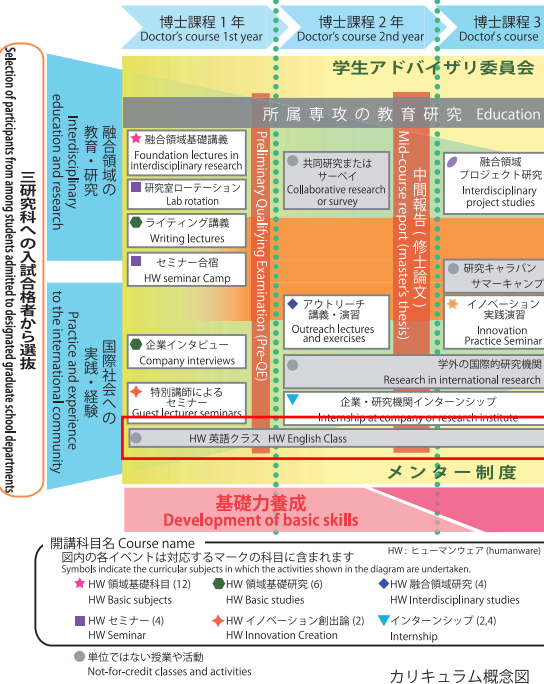
## 学生支援

### ＜奨励金制度＞

大阪大学では、本学位プログラム（ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム）を履修する学生が、学業および研究に専念できるよう、希望者に対して所定の選考を経たうえで、独立行政法人日本学術振興会特別研究員（DC）の研究奨励金に準じた奨励金（給付型）を支給する制度を設けています。

※ 奨励金は所得として課税の対象となります。

※ ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムにおいては、研究拠点形成費等補助金（リーディング大学院構築事業費）による本制度は、平成30年度までの予定です。





## Curriculum outline

This degree program is a collaboration between the Graduate School of Information Science and Technology, the Graduate School of Frontier Biosciences, and the Graduate School of Engineering Science of Osaka University. The curriculum has been designed focusing around interdisciplinary research based on in-depth discussions (*Seido Jukugai*). In order to foster a new generation of

leaders, particularly in the fields of information science and technology, the program has been designed to foster a new generation of

Students are aware of the importance of interdisciplinary research. In this degree program, we have a grant-type Scholarship for students who meet selection criteria. We also have a tuition fee exemption system during the standard study term for program students who are in the doctoral course of the Graduate School of Information Science and Technology, Engineering Science, and in the third year or higher in the Graduate School of Frontier Biosciences and show excellent performance for their study. (However, note that these systems may be subject to change depending on University's financial and other conditions.)

Apart from the above supports for students, the program adopts a “mentor system” in which specially-appointed faculty members, faculty members from other fields at Osaka University, and coordinators from industry and other external partners will be appointed as mentors for each student, providing one-on-one advice and guidance on research in the fields outside students' specialization.

In addition to the individual financial support provided through the above-mentioned scholarships, the program offers a variety of subsidies to support student activities. One of these supports is a student research grant for selected projects conducted by students in both specialized and interdisciplinary areas. Financial support is also available for attending domestic and international training programs and conferences, and self-directed activities of program students will also be supported by a student activities grant system.

## 実践力養成 Development of practical skills

- HW 融合領域プロジェクト研究 (4)  
HW PI interdisciplinary project studies
- イノベーション実践演習 (4)  
Innovation practice seminar
- 内 部 単 位 数  
Number of units

Conceptual Diagram of Curriculum

innovation, research and development strategy, and project formulation and planning. Through these seminars, students develop a broad-based outlook on innovation for society as a whole. From third-year level, students participate in practice-based seminars delivered jointly with corporate partners and covering topics such as strategies for interdisciplinary research and development, the formulation, planning, management and implementation of interdisciplinary projects, and the development of project findings as industrial technology.

### Others

Students are supported by three advisers: two are faculty members from different graduate schools and the other is an expert from the affiliated companies. Advisers bi-annually offer advice on matters such as research progress and career paths. Other educational systems available to students include overseas internships, summer camps, and research caravans.

## Student support

### < Scholarship system >

To enable students of the Humanware Innovation Program to concentrate fully on their studies, Osaka University provides scholarships equivalent to the DC fellowships offered by the Japan Society for the Promotion of Science. The scholarships, which take the form of grants with no repayment obligations, are offered to applicants who pass the necessary screenings.

\* Scholarships are considered income for taxation purposes.

\* Funding for this scholarship under the government's Grants for Creating Research and Education Bases (Leading Programs in Doctoral Education) system is expected to be discontinued in March, 2019.

### < Other support systems >

This program employs a “mentor system” in which specially-appointed faculty members, faculty working in other fields at Osaka University, and coordinators of programs in companies and other external partners become mentors to students, furnishing one-on-one advice and guidance on research in fields outside the students' specialization.

In addition to the individual financial support provided through the abovementioned scholarships, the program offers a variety of subsidies to support student activities. One of these is a system of research subsidies offered to selected projects conducted by students in both specialized and interdisciplinary areas. Financial support is also available for participation in domestic and international training programs offered as part of the program, and students' self-directed activities are supported by a student activities grant system.

## ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム Humanware Innovation Program

情報・生体・認知ダイナミクスの知識を持ち、人に親和性の高いシステムを実現できる  
ヒューマンウェア研究者・技術者の育成  
Foster humanware researchers and engineers who have knowledge of information, biological, and cognitive dynamics and can construct highly human-friendly systems.



## プログラム担当 Program supervisors for the program

### 工学部情報科学系 (Faculty of Engineering, Department of Information Science)

Program supervisor :  
Takao Onoye  
井上 克郎  
Katsuro Inoue  
谷田 純  
Jun Taniida  
藤原 融  
Toru Fujiwara  
松下 康之  
Yasuyuki Matsushita  
若宮 直紀  
Naoki Wakamori

### その他学内 others

社会経済研究所  
大竹 文雄  
Fumio Ohtake  
(Institute of Social and Economic Research)

産学共創本部  
正城 敏博  
Toshihiro Masaki  
(Office for Industry-University Co-Creation)

産学共創本部  
正城 敏博  
Toshihiro Masaki  
(Office for Industry-University Co-Creation)

## 学外プログラム担当 External supervisors for the program

赤津 雅晴 (株式会社日立製作所)  
Masaharu Akatsu (Hitachi, Ltd.)

折原 良平 (株式会社東芝)  
Ryohji Orihara (Toshiba Corporation)

清原 晋三 (パナソニック株式会社)  
Tokuzo Kiyohara (Panasonic Corporation)

方賀 恒之 (日本電信電話株式会社)  
Tsunenori Hatake (Nippon Telegraph and Telephone Corporation)

### 生命機能研究科 Graduate School of Frontier Biosciences

平岡 泰  
Yasushi Hiraka  
倉橋 隆  
Takashi Kurahashi  
難波 啓一  
Keichi Namba  
山本 亘彦  
Nobuhiko Yamamoto

大澤 五住  
Izumi Ohzawa  
近藤 滋  
Shigeru Kondo  
藤田 一郎  
Ichiro Fujita  
柳田 敏雄  
Toshio Yanagida

### 基礎工学研究科 Graduate School of Engineering Science

北澤 茂  
Shigeru Kitazawa  
月田 早智子  
Sachiko Tsukita  
八木 健  
Takeshi Yagi

石黒 浩  
Hiroshi Ishiguro  
細田 耕  
Koh Hosoda  
宮崎 文夫  
Fumio Miyazaki

### 特任教員 Specially Appointed Academic Staff

細田 一史 (特任准教授)  
Kazufumi Hosoda  
(Specially Appointed Associate Professor)

中村 泰 (特任准教授)  
Yutaka Nakamura  
(Specially Appointed Associate Professor)

オム スーヨン (特任准教授)  
Suyong Eum  
(Specially Appointed Associate Professor)

### 特任教員 Specially Appointed Academic Staff

石井 浩二郎 (特任准教授)  
Koichi Ishii  
(Specially Appointed Associate Professor)

中野 賢 (特任准教授)  
Takashi Nakano  
(Specially Appointed Associate Professor)

楊 華 (特任助教)  
Hua Yang  
(Specially Appointed Assistant Professor)

## 研究クラウドファンディング(CF)の受け入れについて

日本において最も有名であるアカデミストというサイトを用いて、学生が研究を受け入れてほしいとのこと。これは、HW 価値創造実践の単位認定として扱える、事業化にむけての活動と考えられる。

アカデミストは大学の奨学寄附金制度に合わせていて、大学は特に制度を新しくすることなく運営することができる。MEXT の調査でも、日本の CF としてアカデミストを代表としている。

HW において運営する場合は、以下のようになりそう（支援事務が寄附担当と相談して提案）。

1. 国際共創大学院学位プログラム推進機構として、プロジェクト支援管理係で研究費として受け入れる（未来基金ではない）。
2. 執行は HW と同様に、情報科学研究科会計で行う。執行権限や執行の手順などは、学生が寄附金を執行する場合の取り扱いについて、情報科学研究科に従う。

よって、今後、進めていくためには以下のようなプロセスとなる。

1. 「受け入れはプロジェクト支援管理係（寄附金を研究費として受け入れる）」はすでに OK。
2. 「執行は情報科学研究科」が研究科にお認めいただけるか？
3. アカデミストに投稿する具体案を、プロジェクト支援管理係にて確認。
4. 投稿
5. 成立すれば、受け入れ
6. 運営

※ なお、たとえば教員がアカデミストを通してとったプロジェクトなら、学生を RA で雇える。ただし、もちろんアカデミストや出資者が認めれば。この場合、RA の雇用手続きはプロジェクト支援管理係、勤怠管理はヒューマン部門事務室で行う。→博士学生支援につながる。

※ 第 6 条の 2 に抵触していないと判断される限りは大学で受け入れることができる。

## 留意事項

academist でのクラウドファンディングにあたっては、下記に示す主な留意事項を必ず一読し、これらの内容に同意の上で、チャレンジすることとします。

### ・利用規約とガイドラインについて

学術系クラウドファンディングサイト「academist」の利用規約（<https://academist-cf.com/pages/regulation>）とガイドライン（<https://academist-cf.com/pages/guideline>）を一読し、それらの内容に同意の上で、チャレンジを施行するものとします。

### ・振込金額について

目標金額を達成した場合、サイトに表示された支援総額から弊社手数料（17%）と決済手数料（3%）、リターンに関する諸経費（送料、リターン作成費用など）を差し引いた額を振込金額とします。振込金額に関しては、チャレンジ終了後、当社が作成した収支表を共有し、チャレンジャーが同意した上で、最終的に確定するものとします。

### ・所属機関の管理経費について

チャレンジ終了後、研究費はアカデミスト株式会社から各所属機関宛てに、寄付金としてお振込いたします（※1）。その際、各所属機関の管理経費については、基本的には各機関の寄付金に関する規則等に則っていただく形になります（※2）。

（※1）チャレンジャーの方に直接お振込することも可能です。

（※2）これまでの事例では寄付者である当社が一筆要望を書くことで、管理経費を抑えられた機関もございました。チャレンジャーの方で管理経費を抑えたいという希望がありましたら、寄付担当者の方に、お問い合わせいただくのがいいかと思います。当社としては、チャレンジャーの方が管理経費を抑えることを希望される場合には賛同し、必要な協力をさせていただきます。

### ・個人の口座に振り込む場合の確定申告について

チャレンジャーの個人口座に直接お振込する場合、雑所得に該当します。金額によってはチャレンジャーの方の確定申告が必要となる場合がございます。

### ・リターンの実現可能性について

academist は、サポーターの方が「リターンを獲得する」ことをとおして研究を支援する仕組みです。「学会発表資料謝辞にお名前掲載」や「論文謝辞にお名前掲載」など、研究の進捗によってリターンの実現に不確実性がある場合、その旨を適切に明示することとします。

### ・支援がキャンセルされる場合について

支援者の登録したクレジットカードが何らかの理由で使えない場合には、当社より支援者の登録したメールアドレスに銀行振込での支援要請を行います。支援要請から2週間後までに銀行振込での対応がない場合には、その支援はキャンセル扱いになるものとします。



# academist



- [academistとは？](#)
- [研究者の方へ](#)
- [大学・研究機関の方へ](#)
- [ログイン](#)
- [新規登録](#)
- [メニューを開く](#)
- [academistについて](#)
- [ご利用ガイド（研究者の方へ）](#)
- [ご利用ガイド（支援者の方へ）](#)
- [FAQ（研究者の方へ）](#)
- [FAQ（支援者の方へ）](#)
- [FAQ（事務担当者の方へ）](#)
- [FAQ（企業の方へ）](#)
- [国内CFP一覧](#)
- [About academist](#)
- [Guide for supporters](#)
- [FAQ for supporters](#)

## academistについて

### クラウドファンディングとは

クラウドファンディングとは、クラウド（Crowd：群衆）＋ファンディング（Funding：お金を集める）という語源からわかるように、「アイデア実現のための資金をインターネットを通じて多数の支援者から集める手法」を指しています。



クラウドファンディング・プラットフォームでは、

- (1) 実現させたいアイデアがあるのに資金の足りない人（＝挑戦者）が支援金を募る。
  - (2) 挑戦者を支援したいと思った人（＝サポーター）が支援金を提供する。
  - (3) サポーターは挑戦者から対価を受け取る。
- という流れで支援金と対価のやりとりが行われます。

### academistとは？

academistは、日本で初めての研究費獲得に特化したクラウドファンディング・プラットフォームです。近年、国立大学への運営費交付金が削減されると共に、競争的資金の割合が増えているため、研究者の多様なアイデアをサポートすることが難しい現状です。実際、研究者の方々から「研究費申請書類にはこう書いているものの、本当はこういうことをやりたいんですよ。」という声を聞くことも少なくありません。

そこで私たちは、研究者が研究アイデアを発信し、その魅力に共感した方々からの資金的サポートを受けられる仕組みを整備したいと考え、クラウドファンディング・プラットフォームを立ち上げました。研究アイデアや研究者の魅力がインターネットを通じて全国に発信されて、より多くの方々に「この研究分野、おもしろい！」と思っていただいたり、アカデミアの現状にふれたりする機会を増やすことで、これからの学術界に発展に貢献していきたいと考えています。

### academistのルール

#### 1. 購入型・寄付型クラウドファンディング（詳細は[こちら](#)）

academistは、購入型・寄付型のクラウドファンディングサイトです。寄付型では、サポーターは研究者に寄付をすることになります。この場合、税制優遇措置を受けることができます。また購入型では、サポーターは研究者に寄付をするのではなく、研究者が提示したリターンを購入する形になります。

#### 2. All or Nothing型

academistでは、all or nothingの仕組みを採用します。挑戦者が設定した目標金額に期間内に達した場合にはプロジェクト成功となり資金を研究費として利用することができますが、達しなかった場合にはプロジェクト失敗となり資金の移動は一切行われません。

#### 3. 20%の手数料

プロジェクトを行う際の手数料はかかりません。プロジェクトサクセスの場合、チャレンジャーは集まった金額の最大80%を研究費として利用することができます。ただし、Tシャツ等の物品をリターンに設定する場合には、材料費や送料等が別途発生いたします。なお、全体の17%は当社の手数料、3%は決済代行会社の手数料となります。

### All or Nothing型とAll In型

クラウドファンディング・プラットフォームに掲載されているほとんど全てのプロジェクトには、アイデア実現のために必要な金額（目標金額）が掲載されています。既存のクラウドファンディングでは、目標金額に達した場合にのみ支援金を受け取れる「All or Nothing型」、達しない場合にも受け取れる「All In型」が扱われています。

## イノベーションを促進する「政策金融」に関する調査分析

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進に関する政策課題  
の調査分析 報告書 分冊(3)

2015 年 3 月

 株式会社三菱総合研究所

### 1.2.2 クラウドファンディング

クラウドファンディングとは、「インターネット経由で不特定多数の人から、特定の人や組織に財源の提供や協力などを行う仕組み」であり、群衆を表す「crowd」と、資金調達「funding」を組み合わせた造語である。クラウドファンディングは、発明品やフリーソフトウェアの開発、個人・法人のプロジェクト、災害復興、政治運動、アーティスト活動の支援、ベンチャー企業への出資など幅広い分野で活用されている。現在日本では、クラウドファンディングが研究費調達の手法としても着目されており、2013 年 4 月に日本で初めての研究費獲得に特化したクラウドファンディングサイト「academist」が開設された。

### 1.3 方法

官民ファンド、クラウドファンディングを対象として、関連文献、レポートおよび諸外国の WEB サイトの調査及び有識者のインタビューにより、各種事例や各国の動向を調査する。

### 1.4 調査対象

我が国を含む以下の 9 か国を調査対象とする。

- ・米国
- ・英国
- ・イスラエル
- ・ドイツ
- ・フィンランド
- ・フランス
- ・中国
- ・韓国
- ・日本

### 3. クラウドファンディングに関する分析結果

#### 3.1 クラウドファンディングの国内外事例の概要

クラウドファンディングは、「アイデアやプロジェクト実現のために、インターネットを経由して不特定多数の人々から資金を募ること」である。クラウドファンディングは、スポーツ、音楽、映画、地域活性化などあらゆる分野に活用されているが、近年、国内外に数十の学術系クラウドファンディングサイトが開設され、さまざまな研究分野のプロジェクトに支援が集まっている。

今後、日本において、基礎研究におけるクラウドファンディングの活用可能性を検討するため、文献・インターネットにより、各国の基礎研究に関するクラウドファンディングの事例を調査した。また、分析の視点として、クラウドファンディングを通じ、プロジェクト応募者に支援金が支払われるまでのフローをもとに以下の4つの視点を設け、それぞれに対応して、プロジェクト応募者に関する分析（どのような応募者がクラウドファンディングを利用しているか等）、プロジェクト支援者に関する分析（支援者はどの程度の金額を提供しているか等）、成功するプロジェクトに関する分析（どのようなプロジェクトが成功する傾向にあるか等）、運営主体・運営に関する制度に関する分析（クラウドファンディングを円滑に運営する仕組み・制度等）を行った。

- プロジェクト応募者（主に研究者）が、クラウドファンディングにより支援金を募る。
  - プロジェクト応募者に関する分析 (3.2)
- 掲載されたプロジェクトに対し、不特定多数の人が支援金を提供する。
  - プロジェクト支援者に関する分析 (3.3)
- 掲載されたプロジェクトが、設定期間内に目標金額に達成すると、プロジェクト応募者に対して支援金が支払われる。
  - 成功するプロジェクトに関する分析 (3.4)
- プロジェクト応募から、支援金の支払いまでを運営する仕組み。
  - 運営主体に関する分析 (3.5)
  - 運営に係る制度に関する分析 (3.6)

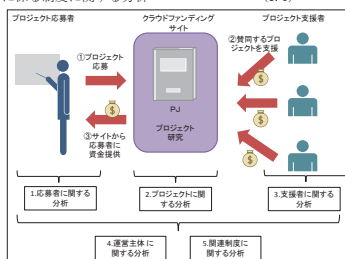


図 3-1 クラウドファンディングのフローと分析の視点

表 3-1 各国の基礎研究に関するクラウドファンディング事例（その1）

NO	ファンド名称	運営主体	拠点	事業開始	資金募集形態 <sup>9)</sup>	ファンドの目的・特徴
1	Experiment <sup>9)</sup>	Experiment	米国	2012/4	AON	・研究者や科学者からなるクラウドファンディングサービス。 ・主に、若い人が行う科学的調査・プロジェクトの資金調達を目的。
2	Sciflies <sup>10)</sup>	Sciflies, Inc.	米国		AON	・世界の医療、環境問題を解決することを目的。 ・運営資金はスポンサーからの寄付金。 ・2015年2月現在では資金調達の成功例はない。
3	#SciFund Challenge <sup>11)</sup>	open science federation	米国		KiA	・科学的なプロジェクトの支援が目的。 ・既存のクラウドファンディング「RocketHub」と「Experiment」内にページを設置。
4	consano <sup>12)</sup>	民間企業	米国			・医療研究に特化したクラウドファンディング。
5	start a cure <sup>13)</sup>	Malecare	米国	2013/3	AON	・米国でがんサポートをしている非営利団体 Malecare が運営。 ・がん研究プロジェクトのための資金調達が目的。
6	Cure cancer starter <sup>14)</sup>	がん研究所等	米国			・運営は①UNC Lineberger Cancer Center (Chapel Hill, NC), ②Roswell Park Cancer Institute (Buffalo, NY), ③Duke Cancer Institute (Durham, NC), ④UW Carbone Cancer Center (Madison, WI), ⑤City of Hope (Los Angeles, CA)が連行。
7	Petridish <sup>15)</sup>	Petridish	米国		AON	・現在、新しいプロジェクトの受付は停止中。 ・有名な研究者・科学者達が、プロジェクトを行う際の資金調達のために利用。
8	Myprojects <sup>16)</sup>	Cancer Research UK	英国			・有効期限、目標金額達成まで ・がん研究を行う Cancer Research UK が資金集めのためにやっている。
9	InjectPower <sup>17)</sup>		オーストラリア			・オーストラリアの考古学研究所 (OAI) とルートヴィヒ・ボルクマン・ゼンシットを含むオーストラリアの大学や研究機関のためのクラウドファンディング。 ・急速に上昇する研究コストを集めるためには、公的資金だけでは不十分であり、民間スポンサーを募っている。
10	ADHD Fund <sup>18)</sup>		オランダ		AON	・ADHD(注意欠如・多動症)の研究のためのオンラインクラウドファンディングプラットフォーム。
11	Illovescience <sup>19)</sup>		スペイン		AON	・科学的なプロジェクトの資金を調達するための国際クラウドファンディングプラットフォーム。

<sup>9)</sup> Experiment のサイト (<https://experiment.com/>)

<sup>10)</sup> Sciflies のサイト (<http://www.crowdsourcing.org/site/sciflies/wwwsciflies.org/11034>)

<sup>11)</sup> #SciFund Challenge のサイト (<http://scifundchallenge.org/>)

<sup>12)</sup> consano のサイト (<https://www.consano.org/>)

<sup>13)</sup> start a cure のサイト (<https://startacure.com/>)

<sup>14)</sup> cure cancer starter のサイト (<http://www.crowdsourcing.org/site/cure-cancer-starter-/wwwcurecancerstarterorg/30367>)

<sup>15)</sup> Petridish のサイト (<http://www.petridish.org/>)

<sup>16)</sup> My projects のサイト (<http://myprojects.cancerresearchuk.org/>)

<sup>17)</sup> Inject Power のサイト (<http://www.inject-power.at/en/Das-Forschungsfoerderungportal>)

<sup>18)</sup> ADHD Fund のサイト (<http://www.adhdfund.com/>)

<sup>19)</sup> Illovescience のサイト (<https://ilovescience.es/>)

12	Funds4Research <sup>20)</sup>		スペイン		AON	・科学に特化したクラウドファンディング。 ・Funds4Researchにより、応募されたプロジェクトは基準を満たすか審査。 ・応募期間は30～45日の間で設定。
13	Science Starter <sup>21)</sup>		ドイツ	2012	AON	・ドイツ初の科学に特化したクラウドファンディング。
14	academist <sup>22)</sup>	株式会社エデュケーション・デザイン	日本	2014/4	AON	・日本初の研究費獲得に特化したクラウドファンディングサイト。 ・生命科学から数理物理、テクノロジー分野まで幅広い分野のプロジェクトを扱う。

※1 資金募集形態の説明：資金を募集する際の形態は、主に2つある。「AON(All Or Nothing)」、「KiA(Keep it All)」の略称（詳細は3.4(3)を参照）。

表 3-2 各国の基礎研究に関するクラウドファンディング事例（その2）

NO	ファンド名称	運営資金	分類 <sup>※2)</sup>	プロジェクト			
				成功	募集中	終了	総数
1	Experiment	プロジェクトが資金調達目標に到達した場合、手数料(5%)およびカード処理手数料(3%)を徴収。	寄付型	264	48	不明	678
2	Sciflies	スポンサーからの寄付金	寄付型	0	0	15	15
3	#SciFund Challenge	詳しくは不明であるが、運営資金の open science federation は amazon と mozilla から資金を調達している。	購入型 (研究関係)	不明	0	157	157
4	consano		寄付型	不明	不明	不明	不明
5	start a cure	手数料 8%		1	0	22	22
6	Cure cancer starter	なし。募金全額が研究に使われる	寄付型	1	0	5	5
7	Petridish		購入型 (研究関係)	32	0	32	32
8	Myprojects	なし	寄付型	20	50	20	70
9	InjectPower	手数料 6.5%	寄付型	0	7	0	7
10	ADHD Fund		寄付型	4	1	4	5
11	Illovescience		購入型 (研究関係)	3	0	3	3
12	Funds4Research		寄付型	1	0	不明	1
13	Science Starter	手数料 4%	購入型 (研究関係)	不明	不明	不明	57
14	academist	掲載手数料はかからないが、成功した場合、達成金額の 80%は挑戦者に、残り 20%はプラットフォーム使用料(振込手数料 4%を含む)として支払われる。	購入型 (研究関係)	6	3	8	11

※2 分類：リターン（見返り）の有無により、クラウドファンディングは「寄付型」「購入型」「金銭型」の3つに分類される（詳細は3.4(2)を参照）。

<sup>20)</sup> Funds4Research のサイト (<https://f4r.org/web/>)

<sup>21)</sup> Science Starter のサイト (<https://www.sciencestarter.de/home.html>)

<sup>22)</sup> academist のサイト (<https://academist-cf.com/>)

#### 3.2 プロジェクト応募者について

##### (1) プロジェクト応募者の属性

ここでは、今後日本において、どのような所属の研究者あるいは団体の間で、クラウドファンディングが活用される可能性があるか把握するため、既存事例における応募者属性を分析した。分析対象は、プロジェクト応募者の属性が公表されている Experiment (米国)、Sciflies (米国)、Petridish (米国)、start a cure (米国)、cure cancer starter (米国)、Myproject (英国)、academist (日本) とした。

まず、分析対象とするクラウドファンディングサイトにおけるプロジェクト応募者の属性を7つに分類する。

- 大学教職員（教授、准教授、助教授、PhD など）
- 研究機関
- 学生（博士課程以下の学生）
- 民間企業
- 非営利団体
- 個人（一般）
- 病院

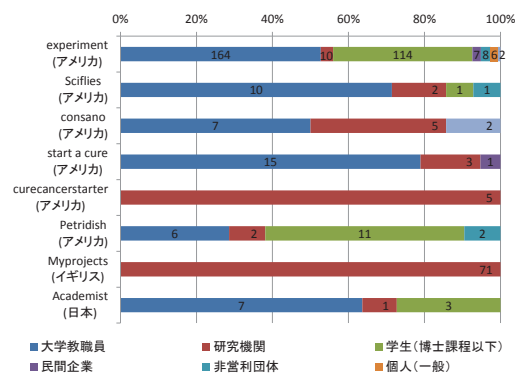


図 3-2 各クラウドファンディングのプロジェクト応募者の属性

## 平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する報告書

平成 29 年 6 月

国立大学法人  
山 口 大 学

山口大学

### 実施状況

・「平成 28 年度資金運用計画（平成 28 年 3 月 18 日策定）」に基づく大口定期預金、20 年国債での運用及び平成 24 年度より開始した中国地区国立大学法人による共同運用、また、平成 27 年度に引き続き基金等を原資とした運用も実施し、約 3,580 千円の運用益を確保したが、最近の金利下落の影響を受け、平成 27 年度の運用益約 7,708 千円には及ばなかった。また、クラウドファンディングの導入について検討を行い、平成 29 年 4 月に学術系のクラウドファンディングサイト「academist（アカデミスト）」による研究資金の募集を開始した。

・創設 200 周年を契機に創設した「山口大学基金」を活用した平成 28 年度からの学生への支援事業の推進と基金の拡充のため、平成 27 年 7 月 1 日、総務企画担当副学長を事務局室長とする山口大学基金事務局を設置し、専任のスタッフを配置して学内体制を整備した。また、寄附目標額達成のため、平成 28 年度当初に平成 28 年度募金活動方針を策定し、教職員に対して、①専任のスタッフに加え、学長、副学長、学部長や部長が組織を代表して募金活動を行うこと、②寄附依頼を行うことを意識して企業等との良好な関係を構築することについて周知した。

・寄附対象者を、企業、同窓生、教職員に区分し、企業等（訪問企業 64 社）に対しては、山口大学基金支援会（山口大学基金の趣旨に賛同する企業・法人・団体等を会員とする会）への加入依頼及び寄附依頼を行い、卒業生へは同窓会を通じて広報誌等により寄附の働きかけを行った。寄附の現状や学生への支援状況について、部局長会議、教育研究評議会、経営協議会に報告し、基金の学生支援事業について周知するとともに、各学部の教員会議等で基金の支援事業についての説明と教職員に対する寄附の呼びかけを行った。

・新たな寄附手段として古本募金を開始し、卒業・退職の時期にはキャンペーンを実施して利用促進を図ったほか、経済的理由により修学が困難な学生を支援するための寄附に税額控除制度が適用されることとなったため、大学基金規則を改正し基金の目的及び事業内容を学生支援に特化したものに見直した。また、古本募金の開始や税額控除の適用について、「基金だより」や「web ページ」等により個人の寄附者に対してのメリットをアピールし、個人寄附者の増を図った。

・大学基金による学生支援事業を学外に向けて広くアピールするため、支援事業の状況や支援を受けた学生の声を紹介する「基金だより」を発行し、さらに、新聞（全国紙）の大学入試センター解答版や地域のイベントで配布するグッズやちらし、企業で組織された団体の会員名簿等へ山口大学基金の支援事業に関する広告を掲載した。また、ホームカミングデーのパンフレットにおいて山口大学基金の説明及び奨学生の声を掲載したほか、給付型奨学金受給者と寄附者による懇談会を開催した。

・これらの取組により、山口大学基金事務局が創設されてから平成 29 年 3 月までの寄附金額は、企業 15,270 千円、同窓生 16,915 千円、教職員 4,330 千円、その他 3,074 千円で、その合計金額は 39,589 千円となっている。（創設 200 周年記念事業募金との合計額 504,036 千円）